子育て情報（園長先生の子育てひろば）

令和２年度　２月
椙山女学園大学附属幼稚園

節分

園長　山中　文

今年の節分は２月２日でした。２日になるのは、実に１２４年ぶりのことだそうです。

本園でも、節分行事を行いました。新型コロナウイルス感染症対策がありますから、外部から鬼においでいただけず、今年ならではの鬼に活躍していただきました（詳細は、子どもたちの手前、秘密です）。

子どもたちが過度に怖がってくっつきあって密になってしまわないように、学年にあわせてやさしめの鬼から少し怖い鬼までイメージを変えていただきました。豆まきも学年ごとだと大勢が集まるので、クラスごとで行いました。１クラスずつ、鬼が「悪い子はいないかあ」と入ると子どもたちは一生懸命に豆をまき、鬼が退散したところでお福さんが福豆を持って登場する、そして次のクラスへ、といった感じです。

各クラスでは、担任教師が鬼に連れていかれそうになると必死で教師の手をつかんだり、怖いはずの鬼により近づいて豆を投げたり、どうしようとうろたえたり、と、子どもたちの気持ちが溢れ、正義感や葛藤がないまぜになるような場面が見られました。

お福さんの登場にも、各クラスでさまざまな反応がありました。年少さんは、「この人は誰？」という感じでこわごわです。年中さんは、「園長先生でしょ！」と疑ってみますが、「園長先生は眼鏡をかけているだろう。空から見えている。眼鏡がないと歩けないはずだ。私はこの通り歩いておるぞ」「私は何百年も生きておる。あんな若造と一緒にしてもらっては困る！」というお福さんの話にとりあえず納得します。しかし、年長さんは、「いや、声も一緒だ」「眼鏡をかけてみて」と、一緒のはずだという証拠固めをあれこれしてきます。豆まきがおわって給食の手伝いに行ったら、行った先のクラスの子どもたちは、一斉に私の方を向き、にやっと笑って「お、ふ、く」と呼び掛けるなど、私の反応を見ようとしました（もちろん、子どもたちの手前、お福さんは別人です）。

年齢ごとの、またクラスごとの子どもたちの反応が楽しくて、昔からこうして大人も子どもも春を待つ行事のひとときを過ごしたのだなあと思ったことです。

それぞれのご家庭での鬼に対する子どもたちの反応はいかがだったでしょうか。

せっかくの豆まきですが、子どもが豆を喉につまらせる事故が多いことが、ニュースで報道されています。本園でも保護者の方にお知らせするとともに、豆まき用の豆は紙粘土で大きく作り、お福さんが子ども達に渡す小袋入りの福豆は縁起物としてお家の方にまずお渡しするようにとしました。

以下は消費者庁から出されている注意喚起です。事故は思いがけず起きますから、よく知っておきたいですね。

https://www.caa.go.jp/policies/policy/consumer_safety/caution/caution_047/assets/caution_047_210120_0001.pdf